

2017年度 決算説明会 議事録

J F Eシステムズ株式会社

【決算ハイライト】

① 2017年度決算 (カッコ内は前年同月比)

- ・売上高=40,281百万円 (+3.0%)、経常利益=2,817百万円 (+22.7%)
→ 売上高・経常利益ともに3期連続で過去最高を更新
製鉄所システムリフレッシュ、基盤サービスの拡大で売上増。中期計画最終年度の利益目標を超過達成

② 2018年度見通し (カッコ内は前年同月比)

- ・売上高=43,000百万円 (+6.7%)、経常利益=2,900百万円 (+2.9%)
→ 売上高・経常利益ともに4期連続で過去最高を更新する見通し
株主還元は、配当性向30%を視野に70円/株を予想(2017年度予定=50円/株)

③ 第6次中期経営計画(2018-2020年度)

- ・最終年度の目標値を売上高=460億円以上、経常利益=32億円以上(ROS7%以上)、とし、その達成に向けて、5次中期計画の各種施策のさらなる深化を志向。

[主な施策]

- (1) 鉄鋼事業=製鉄所システムリフレッシュの本格化に向けた体制確保とともに、AI、IoTなどの最新デジタル技術の蓄積を推進。
- (2) ソリューション事業=複合ソリューションのテンプレート化を推進するとともにRPA事業への参画等、新技術への取り組みを拡大。
- (3) 基盤事業=情報セキュリティ新組織の立ち上げを契機に、セキュリティサービスの事業化、人材育成を推進。

(質疑応答内容)

- Q1 製鉄所システムプロジェクトは、今後5~6年間は継続して続くとの説明があったが、その要員確保に関する考え方を教えてほしい。
- A1 国内の既存のビジネスパートナーに人材確保の要請をお願いし、一定の規模を確保出来ているが、更なる規模拡大に備え、ベトナム・ハノイのオフショア先に弊社のラボを構えて、そこへ社員を常駐させて開発を行っている。
- Q2 2018年度は2017年度に対して利益率が下がる計画となっているが、その理由は？
- A2 利益率が下がる主要因は、基盤事業のサービス化に伴う初期投資に起因する償却費の増等が挙げられる。

Q3 中期計画の中間年度である 2019 年度の収益見通しは？（2019 年度がピークで 2020 年度に下がる、という形になるのか。）

A3 2019 年度は、2018 年度目標と 2020 年度目標との中間という位置付け。全体感として、2019 年度が 2020 年度を大きく上回ることはない。

Q4 今後の RPA ビジネス（UiPath）の展開の方向性について教えてほしい。

A4 まずは J F E グループ内への展開を考えている。特に商社系業務には RPA を活用できる余地があると認識している。

以 上